

## （２）骨格となる軸的な要素

主に地勢の要素、軸的な空間要素などから、景観の基本的な特性が軸的に伸びる市街地空間の要素として「上町台地」及び「河川」、都心部の「幹線道路」の景観軸が抽出できます。

### 【骨格となる軸的な要素】

基本となる面的なまとまりの上にあって、上町台地及び河川、幹線道路が景観の骨格となる軸的な要素となっています。

#### ①上町台地景観軸

- ・地形の高低差による坂道・斜面や多くの寺社仏閣、豊かな緑により周辺の市街地とは異なる特色を有する一帯です。
- ・大阪城公園周辺、夕陽丘周辺、帝塚山周辺でまちなみの特徴は異なっています。

##### <上町台地北部>

- ・上町台地の北部は、かつて大阪城の城下町として、はじめに市街化したエリアです。緑豊かな大阪城公園を核とし、現在では、公共施設を中心とした比較的規模の大きい建築物が立ち並んでいます。
- ・大阪城の天守閣は、広域から眺望することができる大阪を象徴するランドマークとなっています。

##### <上町台地中央部>

- ・上町台地の中央部は、古くより人々に住まれてきた一帯であり、大阪の歴史・文化の発祥地といえます。
- ・上本町駅前においては、大規模な商業ビルや演劇場などからなる、かつてのターミナル駅周辺にふさわしい風格のあるまちなみが形成されています。
- ・夕陽丘周辺では、豊臣秀吉・松平忠明の頃に集積した四天王寺まで続く寺町など、多数の歴史的資産が景観に深みを与えています。また、風致地区に指定された崖線の緑や、多数の社寺林により、緑豊かなまちなみが形成されています。
- ・また、高低差の大きい上町台地の中でも特に坂や斜面が多く、立体的なまちなみが形成されています。

##### <上町台地南部>

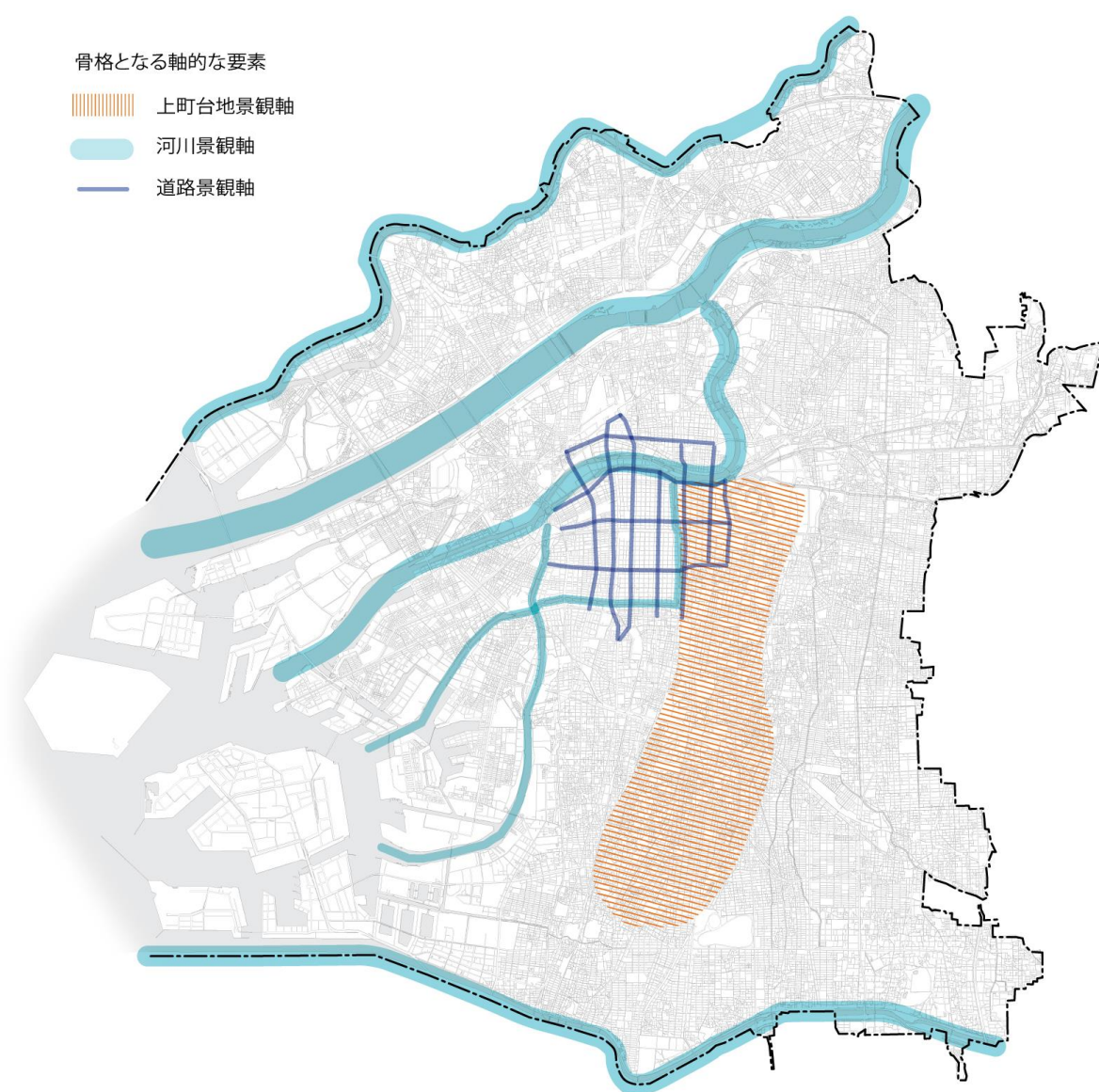
- ・帝塚山周辺においては、風致地区の豊かな緑や比較的敷地の大きい戸建住宅により潤いとゆとりあるまちなみが構成される一帯です。

#### ②河川景観軸

- ・淀川や神崎川、大和川といった大河川は、広大なオープンスペースとして機能し、沿川の建築物などは対岸から眺望されるため景観に与える影響も大きくなります。特に高層のものなどは、遠方からもランドマークとして認識されます。
- ・大川や都心部を口の字に流れる川（堂島川・土佐堀川、木津川、道頓堀川、東横堀川）からなる水の回廊は、親水性が高く市民や観光客などが水辺景観を楽しめる空間となっています。
- ・近年では、舟運が活性化され、河川上が新たな視点場としての役割を得つつあり、街路景観とは異なったまちなみ（沿川景観・かわなみ）を臨む機会が増加しています。

### ③道路景観軸

- ・幹線道路は歩道や街路樹が整備され、多くの人々が行き交う、見通しのよい空間です。
- ・沿道の建築物等は、基本的に道路側に間口を持つなど、配置等が同質なものとなり、これらが連なることにより道路に沿って移動すると連続的な（シークエンス）景観を意識することができます。
- ・都心部の幹線道路では、周辺部の幹線道路とは異なり沿道市街地の密度が高いため、都市の顔らしい連続性のある街路景観としての特徴がより強く、軸的な骨格要素となっています。



## ○景観構造の特性図

基本となる面的な要素

-  都心景観ゾーン
-  臨海景観ゾーン
-  一般市街地

骨格となる軸的な要素

-  上町台地景観軸
-  河川景観軸
-  道路景観軸

